

# ひまわり

男女共同参画推進室ニュースレター

HiMaWaRi

University of Hyogo Marvelous Women Researchers

Vol.19  
平成29年1月発行

発行:兵庫県立大学男女共同参画推進室  
〒651-2197 神戸市西区学園西町8-2-1  
TEL:078-792-4822 FAX:078-794-5575

11月から12月にかけて新しい取組を行いました。効果的な資料作成という視点からの研究力向上セミナー、県立龍野高校への女性研究者ロールモデル派遣、そして商科キャンパスの学生を対象とした男女共同参画教育の実施です。参加者・学生から寄せられたコメントを生かし、来年度以降も発展的に継続させていきます。



神戸商科C  
分室主催

## ビジュアルデザインと プレゼンのスキルアップセミナー

本事業で初めて「デザイン」や「プレゼン」をテーマとした研究力向上セミナーを開催しました。講師は、日本サイエンス・ビジュアルリゼーション研究会より3名にお越しいただき、パワーポイントで研究成果をわかりやすく伝えるコツを学びました。



日時:平成28年12月7日(水) 14:30~16:30  
場所:神戸商科キャンパス 研究棟I 115 会議室  
講師:日本サイエンス・ビジュアルリゼーション研究会  
参加者:22名(教員17名、学生2名、その他3名)

一部

「研究のためのビジュアルデザイン入門」  
田中佐代子さん(筑波大学 芸術系 准教授)

二部

「納得を生むプレゼンテーション」  
三輪佳宏さん(筑波大学 医学医療系 講師)

三部

「実例を用いたプレゼンスキルのアップの試み」  
小林麻己人さん(筑波大学 医学医療系 講師)

### 参加者の声

- ・3人の先生が違う角度からプレゼンを掘り下げてくださり、大変勉強になりました。
- ・すぐに使える技術がわかってよかった。



龍野高校  
主催

## Rikejoを囲む会

本学の女性教員が、龍野高校 SSH (Super Science High Schools) 部「Rikejoを囲む会」に招かれ、自身の高校時代の経験や進路選択、大学生活、これまでのキャリアパスなどを紹介しました。また、後半には座談会が設けられ、和やかな雰囲気の中、高校生から研究や職業について積極的に質問がありました。

日時:平成28年12月16日(金) 13:30~15:30  
場所:県立龍野高校  
講師:加藤泰子(県立大学看護学部 助教)、野崎安衣(県立大学工学研究科 助教)  
参加者:29名



### 参加者の声

- ・先生方のお話は、とても楽しそうに生き生きしていたので、私もそうなれればいいなと思いました。
- ・新たな発見ができて、夢の実現に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。

男女共同参画教育

## 「女」とは誰か——男女共同参画をめぐる3つの誤解

日時:平成28年11月14日(月)、17日(木)  
場所:神戸商科キャンパス 教育棟II 202 教室  
講師:山口真紀(県立大学男女共同参画推進室コーディネーター)

本推進室の山口コーディネーターが、経済学部1年生を対象に男女共同参画導入教育として特別授業を行いました。平成29年度からは選択必修科目の1つとして、男女共同参画に関する内容のオムニバス授業が新設される予定です。

▶平成28年11月、世界経済フォーラムが発表した各国の男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数において、日本は144ヶ国中111位と、前年度より10位後退しG8では最下位でした。本指数は、「健康と生存率」「教育」「政治への参加」「経済活動への参加と機会」の4つの分野から作成されており、日本は「経済」(118位)での大きな遅れを指摘されています。

▶日本の年齢階級別労働力における女性

のM字曲線は徐々に回復しているとはいえ、先進諸国に比して根強く残り、さらにほとんどが非正規であることから、職業の選択・処遇・所得における性別格差が問題となっています。

▶この問題は、研究職においても例外ではありません。日本の女性研究者の比率は14.0%であり、露・英・瑞典・米の平均値37.5%に比べて低い水準にとどまっています(内閣府「平成25年版男女共同参画

白書)。政府は「第4期科学技術基本計画」にて女性研究者の新規採用割合を自然科学系全体で30.0%に高めると掲げており、大学や公的研究機関に対しては柔軟な雇用形態や人事及び評価制度の確立、在宅勤務や短時間勤務、研究サポート体制の整備を進めるよう要請しています。

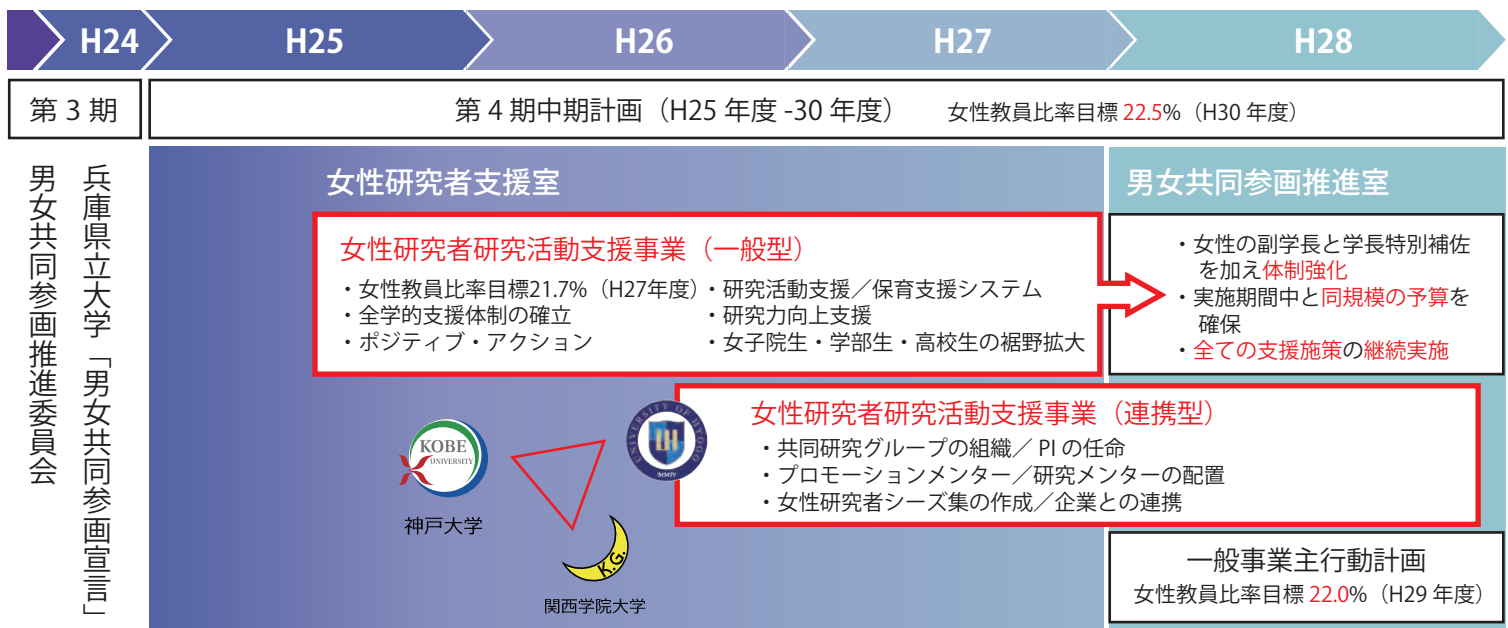
▶本学でも、男女平等の実現に向けた社会的責任を果たすべく、男女共同参画を推進しています。



## 補助期間後の体制および目標値

本学の男女共同参画の歩みは、平成21年の男女共同参画推進委員会の設置にはじまります。平成24年に「男女共同参画宣言」を行い、平成25年には「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」に採択され、具体的な取組を開始しました。事業の展開に伴い、本部に副学長を長とした女性研究者支援室、8キャンパスには経営

部長を長とした分室を設けました。主な支援内容は、ライフイベント中の女性教員に対する研究活動支援/保育支援、研究力向上支援、女性研究者の裾野拡大です。また、ポジティブ・アクションを実行し得る学内意識の醸成を目指し、男女平等の理念について啓発活動に努めています。



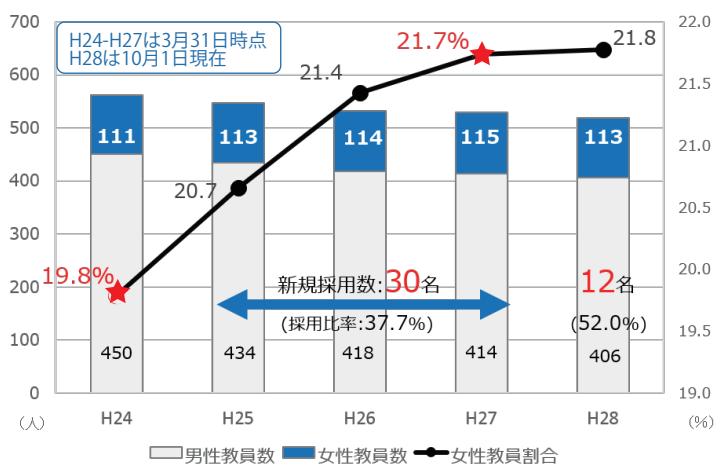
本年度からは、女性研究者に限らず本学に属する全ての構成員を支援するため、学長特別補佐を新たに室員に迎えて、女性研究者支援室を男女共同参画推進室へと発展させました。神戸大学・関西学院大学との共同実施である「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」事業も担い、3大学の多種多様な研究資源を活用した研究グループの組織化を図っています。

「女性活躍推進法」の施行に伴って、現在、国・地方・大学・

企業等の社会的責任として、構成員における女性比率の視覚化とその向上が目指されています。本学では、この間の取り組みを通して、「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」で平成27年度に掲げていた目標値の17.5%を達成しました。また、女性教員比率について「一般事業主行動計画」には平成29年度に22.0%、「第4期中期計画」には平成30年度に22.5%を明記しており、目標値達成のために全学的な取り組みを進めています。



## 女性教員の在籍数および在籍比率の推移



本学の女性教員比率は、一般型事業申請時の平成24年度時点から見て、緩やかですが上昇傾向にあります。平成25年から27年の間の女性教員の新規採用数は30名にのぼり、女性の採用比率は37.7%でした。平成28年度はさらに12名の女性教員を新規に採用し、採用比率は52.0%と高い実績となっています。

しかしながら部局毎に見てみると、看護学部が75.0%と突出して高く、経済学部29.8%、経営学部15.6%と続き、理学部・工学部に至っては7.6%、1.6%と、大きなばらつきがあります。全学的な目標値のみではなく、部局の状況や事情にあわせて目標を定めることが必要です。また、理学部・工学部は全国平均よりそれぞれ5.6ポイント、8.1ポイント低く、重点的な取り組みを進める必要があります(「平成25年度科学技術研究調査報告」)。